

ねむの木学園

宮城まりこさん

今年、3月21日宮城まりこさんが93歳でお亡くなりになりました。お体の状態から、この展覧会が最後になるかもしれない・・・この舞台が最後かも・・・と思いながら見させていただきました。まりこさんの訃報を聞いた時、(わたしも含めて)周囲の人々が静かに死を受けとめられるだけの心の準備ができるのを見届けるかのようなタイミングで最後まで心の底から優しさに満ちた人生を送られたのだなと思いました。

まりこさんとの出会いは、わたしが小学6年生の時。

わたしの母は教育熱心な人ではありませんでしたが、子どもを連れてあちこちでかけるということとはめったにありませんでした。それなのに連れて行ってくれたのです。岩波ホールに。

宮城まりこさん監督作品「ハローキッズ！」をみました。

映画をみただけで小6のわたしは感動で胸がいっぱいでした。そこにまりこさんが「映画を見てくれてみなさま、ありがとうございます。宮城まりこです。ありがとうございます」と出ていらしたのです。小柄な優しい綺麗な人だな・・・もう40年も前のこと・・・でも鮮明に覚えています。映画の関連グッズを買うとサインがいただけることがわかり、本を2冊、音楽のカセットテープとTシャツを母に買ってもらい、サインをいただきに列に並びました。

サインだけではなく、握手もしてくださいました。柔らかくて暖かい手でした。

わたしはなぜかぼろぼろと涙がこぼれて止まらなくて、そんなことはじめてでしたのでどうしていいのかわからず落ち着くまで茫然としていました。

この時買ってもらった本は何度も何度も何度も読みました。

子どもの中にある素晴らしいものを引き出す関わり方って？

障がいのある子は就学免除という制度が当時あって、学校にいかなくてもいいって

それって学ぶ権利をうばってない??

子どもと真剣に向き合うってどうすればいいのか・・・など

この時のわたしは、この出会いがその後の人生に大きく影響することになるとは、気が付いていませんでした。